

令和3年度 自己評価

岐阜県関市立関商工高等学校

学校番号 63

I 自己評価

1	学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。		
2	評価する領域・分野	教務部		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学習アンケートにおいて、70%以上の生徒が意欲的に授業に取り組んでいる、80%以上の生徒が説明が丁寧で分かりやすいと回答（よいと回答）していることから、毎日の授業を教科主任中心に教科担任が工夫した授業を展開し、一人一人の生徒に対して手厚い指導をされていることが分かる。ICT機器を効果的に活用し、理解度の向上に努めたい。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) タブレット等のICT機器の利活用の推進により、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業の工夫・改善に取り組む。 (2) スタディサプリの利活用の推進により、基礎学力の向上を図る取り組みを実施する。 (3) 新学習指導要領に対応した、教育課程の再編及び学習評価の方法を検討する。 (4) 学校HP等のWeb利用の広報活動において、効果的な利用方法を研究・開拓・実施する。 (5) 他の分掌、学年など、すべての部署がスムーズに連携を図れるような環境を整える。		
5	重点目標を達成するための校内組織体制	教務部会、各分掌、学年会、専門部会等との連携強化を図る。		
6	目標達成のための具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 教育課程の編成及び学習評価の方法を検討 (2) ICT機器、スタディサプリア及びR-timeによる学習の定着 (3) 授業研修週間の実施 (4) HP・広報活動の充実 (5) 他分掌との連携強化		(1) 各教科より建設的な意見や要望。 (2) 授業評価アンケート結果、校内基礎力認定試験結果の分析。 (3) 実施の有無、各教科よりの意見や要望。 (4) ホームページの更新数や閲覧数。 (5) 自己評価会議の評価。		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 各教科の意見・要望を聞いて、R4年度入学生から実施の新学習指導要領に基づいた教育課程・評価について研究の実施。 (2) スタディサプリの活用について情報共有を行った。 (3) 前期は授業参観、後期は研究授業により、ICT機器の活用や指導方法の共有を行った。 (4) ホームページ等広報活動の充実のため、他の分掌との連携。 (5) 関係分掌長との打ち合わせの実施。		(1) 将来の関商工の見通し、教育課程等に生かすことができたか。 (2) 利用度は高まっているか。 (3) 適切な支援及び指導。 (4) ホームページによる最新の情報提供。 (5) スムーズな連携が図られたか	(1) <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D (2) <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D (3) <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D (4) <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D (5) <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	
11	成果・課題	○コロナ禍が続く中、学校行事の変更等について、管理職や関係分掌と調整を行うことが出来た。 ○タブレットやスタディサプリアなどの活用により、オンライン学習支援を実施するなど、導入初年度から効果的に利用できた。 ○昨年からの継続課題であった、商工乗り入れる2単位や評価について、令和4年度の新学習指導要領を見据えて検討することができた。 ●コロナ禍の影響により、職員、生徒ともに集まれる機会が減少したことで、意思統一がなされていないと感じた。		
12	来年度に向けての改善方策案	・ICT機器やスタディサプリアについて、実践事例を共有することにより、更なる利活用を図る。 ・新学習指導要領に基づいた学習評価の方法について、検証を行うことにより、公平公正な評価となるように努める。		

II 学校関係者評価

実施年月日 紙面開催

【意見・要望・評価等】

学習指導要領の改定にともない、地域やその時代に沿うような教育をしてほしいという意見に対して、本校だからできる取組（例えば商工の利点を生かしたハイブリッドな授業）を検討していきたい。